

障害者支援施設あき

事業の総括

- 1 土佐厚生会の会是「愛情」、「奉仕」、「連帯」の精神を遵守し、人権の尊重とプライバシーの保護に努めるとともに利用者の意向を尊重したサービスの提供を行った。
- 2 業務改善提案制度により、提案された改善のアイデアを活用しサービスの質の向上に努めた。
- 3 個別支援計画の見直し回数を変更するための体制を整え、それに基づき日常生活の援助および心身の健康保持を行い、安全で安心できる福祉サービスの提供に努めた。
- 4 喀痰吸引等特定行為業務従事者認定資格の取得に向けて研修を重ね、認定資格取得者が82.6%となった。
- 5 利用者の増員は大きな課題であるが、職員体制が十分に整わず、利用者定数42名と低迷した。

事業の概要

- 1 適切かつ良質な福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実と職員資質の向上を図った。

(1) 利用者個々の状況に応じた個別支援計画のもと次のとおり実施した。

生活介護事業

昼間、常に介護を必要とする利用者様に、入浴、食事、排泄等の介護を行うとともに、機能訓練や創作的活動の機会を提供した。

施設入所支援事業

夜間や休日、施設に入所する利用者様に、食事、排泄等の介助を行った。

(2) 利用契約状況は、次のとおりであった。 (平成26年3月31日現在)

	6	5	4	3	2	1	合計
生活介護	21人	12人	4人	4人	1人	0人	42人
施設入所支援	21人	12人	4人	4人	1人	0人	42人

(3) 職種・職員定数など配置基準を遵守し、人材育成とサービスの質を高めるための職員研修を行い資質の向上に努めた。

職員の配置状況は、次のとおりであった。 (平成26年3月31日現在)

職種名	施設長	事務員	サービス管理責任者	理学療法士	機能訓練指導員	医師	看護師	栄養士	生活支援員(相談)	生活支援員(介護)	夜間警備員	その他	合計
職員配置数	1	2(1)	1	1	1	1(1)	3(1)	1	1	22(13)	1(1)	5(5)	40(22)

(注) 臨時職員は()書で再掲。

福祉サービスの質の向上をはかるため、職場内研修（OJT 研修）や、ケースカンファレンス、また、施設外研修（OFF-JT 研修）に参加し、知識、技能の向上に努めた。
その状況は次のとおりであった。

事 項	実施年月日	場 所	概要	人員
平成 25 年度第 1 回中・四国身体障害者療護施設協議会総会及び施設長研修会	5.15～5.16	島根県	障害者総合支援法、新会計基準、権利擁護・虐待防止、相談支援事業、サービス支援計画、たんの吸引等研修、人材育成、労務管理について。	1
2013 年度・第 38 期福祉施設長専門講座	6.22～6.25 1.31～2.3	神奈川県	専門知識や管理能力などをテキストやスクリーングを通して学習し、実践能力を高める。	1
福祉人材確保セミナー	7.4	高知市	必要な情報を収集するとともに、効果的な人材確保戦略への考え方や具体的な方法等を習得する。	2
平成 25 年度福祉サービス苦情解決セミナー	9.6	高知市	苦情の本質を理解したうえで解決を図ることはもとより、提供している福祉サービスの見直しや質の向上に活かす。	2
メンタルヘルス推進担当者養成研修	9.18 10.16 11.6	高知市	メンタルヘルス指針の概要と実務、疾患の正しい理解、職場復帰支援の仕方など、メンタルヘルス推進担当者を養成。	2
平成 25 年度第 38 回中・四国身体障害者施設職員研修大会	10.3～10.4	高知市	福祉施設の職員として利用者のニーズを受け止め、そのニーズに応えているかどうかという基本に立ち戻って、これからの施設をどう考えるか、障害福祉の目指す目標について研鑽する。	9
高知県介護福祉士会特別研修会「介護のプロになるとは」	11.2	高知市	本物のプロとして成果を示す職員となるには、どのような姿勢と取組が必要か、どんな点に留意すべきかなどを学び、行動・実践力の向上を図る。	2
平成 25 年度介護福祉士実習指導者講習会	11.5～1 1.6 12.2～12.3	高知市	介護の基本、実習指導の理論と実際、介護過程の理論と指導方法、スーパービジョンの意義と活用及び学生理解、学習指導の方法と展開・実習指導における課題への対応、実習指導者に対する期待の講義。	2
第 29 回中・四国ブロック福祉施設士セミナー-高知大会	11.12～11.13	高知市	今後の経済対策における規制緩和と財政再建の行方を学び、先行き不透明な社会保障はどう位置づけられ、どのような方向で福祉政策としてすすめられようとしているのか考察する。	3
コミュニケーション技術研修	11.13 12.11 1.15 2.5	高知市	人の話をきく「聴き方」の基本、より良い人間関係を目指し、活用できる「傾聴法」、問題ではなく「解決（ソリューション）」に焦点を絞る技法をベースに実際の面接の流れを踏まえ実習する。	2
全国社会福祉法人経営者協議会初級リスクマネジャー養成講座 2013	12.3～12.4 2.24～2.26	東京都	社会福祉施設、事業所においてリスクマネジメントの中核を担う「リスクマネジャー」として必要とされる幅広い知識、手法等の習得。	1
平成 25 年度高知県障害者虐待防止・権利擁護研修	12.4～12.5	高知市	障害者の人権や虐待について理解を深めるとともに、虐待に繋がらないためには何が肝心で、支援者はどうしていかなければならないかについて考えていく。	2

平成 25 年度高知県相談支援従事者追加研修	12.11 1.31 2.1 2.20 2.21	高知市	相談支援事業の相談支援業務に従事するために必要な事項について学ぶことにより、相談支援を提供する「相談支援専門員」を育成し、相談支援の質の向上を図る。	1
平成 25 年度高知県介護福祉士会第 3 回 NEXT 勉強会「接遇マナーと苦情・家族対応」	1.26	高知市	「このマナーは大丈夫」等の現場で感じる疑問を解決し、苦情対応や家族との関わり方を学ぶ。	1
高知県高齢者及び障害者権利擁護連携会議	2.6	高知市	障害者の権利擁護、高齢者の権利擁護、成年後見制度についての会議。	1
高知県社会福祉法人経営者協議会福祉経営セミナー	2.14	高知市	内部留保、経営の合理化・近代化、経営情報の公開に対する指摘や他の主体とのイコールフィッティングなどの議論の論点と必要な対応。	1
平成 25 年度高知県身体障害者(児)施設協会生活部会研修会	3.20	南国市	めまぐるしく制度改正が行われる中、福祉の現場では変化に対応し、さらに質の高いサービスの提供が求められている、職員のスキルアップを目指す。	6

職員の意識向上のため、毎日の朝礼で具体的支援目標の唱和を行った。

障害者(児)施設サービス評価基準により、毎年 10 月 1 日に福祉サービスの実践状況についての評価を行い、その質の向上に努めた。その結果は別紙のとおりである。

諸会議等の開催状況は下記のとおりである。

ア 施設運営関係

連絡調整会(週 5 回)、職員会(月 1 回)、業務改善提案委員会(月 1 回)

安芸連絡会(月 1 回)安全衛生委員会(月 1 回)、防災委員会(年 1 回)

イ 利用者サービス関係

懇談会(月 1 回)、午前の集い(月 1 回)、給食懇談会(月 1 回)、ケア会議(月 4~5 回)施設運営委員会(月例会 月 1 回、定例会 年 3 回、総会 年 1 回)、事故防止委員会(3 ヶ月に 1 回)事故対策会議(随時)、虐待防止委員会(3 ヶ月に 1 回)、身体拘束防止委員会(3 ヶ月に 1 回)、感染症対策会議(随時)

2 利用者が安全で安心して日常生活を送ることができる環境の整備、充実とその維持管理に努めた。

(1) 施設・設備の充実とその維持管理に努めた。

施設内外の整理、整頓、清掃の徹底に努めた。また、中庭の花木の手入れ、花壇の整備等は園芸サークルを中心に実施し環境の美化に努めた。

室内の温湿度の管理を適切に行い、安心して快適な日常生活が送られるよう努めた。特に、冷暖房による室温管理には注意を払った。

室内清掃は毎日実施し、特に感染症対策期間中は消毒を徹底した。

設備の保守点検は、自主点検や外部委託の方法等により実施した。

施設の修繕工事

設備の老朽化による補修と快適な生活環境保持のために次の修繕工事を行った。

ア 高圧電気設備改修工事	470 千円
イ 給湯用ヒーター熱源ポンプ交換	171 千円
ウ 玄関ホール廊下・壁面塗装修繕	99 千円

施設物品の購入

現有の設備等の見直しを行い、利便性の向上のため次の物品を購入した。

ア PCA 社会福祉法人会計 V.5 ソフトウェア購入	648 千円
イ 富士通ノートパソコン corei5A574/HX 購入	132 千円
ウ 富士通ノートパソコン corei3A574/HX 購入	113 千円

(2) 施設の災害や利用者の事故防止など、安全対策に努めた。

非常災害時の利用者の生命保護と施設の安全を確保するため、総合防災管理規程およびやながれ地区福祉ゾーンの消防計画に基づいて、安芸市消防本部と連携をとりながら八流荘と合同で総合的な防災訓練と避難訓練を実施した。その内容は次のとおりである。

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導訓練													2
消火訓練													3
通報訓練													3
地震訓練													1
図上訓練													2
夜間訓練													3
その他訓練													2

施設内の事故防止を未然に防止するため、「ひやり、ハット報告」、「事故報告書」を活用し、要因分析と対策を実施し、事故の予防と再発防止に努めた。

施設設備の管理や防災上の重要な場所または火気を扱う場所では、火元取締責任者を置き、その責任体制を明らかにした。

業務上の各種マニュアルにより、利用者の生命の安全、保健衛生の徹底に努めた。

3 基本的な日常生活や自立生活へ向けての支援に努めた。

(1) 個別支援計画に基づく自立生活の支援と便宜の供与に努めた。

入所時には、利用者個人個人に応じた個別支援計画の作成を行い、利用者およびその扶養義務者に十分な説明を行い承諾を得た。

個別支援計画は、適切な利用者ニーズの把握に努め、ケア会議で検討し作成した。また定期的なモニタリングの実施と、必要に応じた見直しも行った。

職員は、利用者およびその扶養義務者の人権の尊重、プライバシーの保護に努めるとともに、業務上知り得た個人の秘密は、他に漏らしてはならないよう徹底した。

施設での日常生活は、別表1の「生活プログラム(標準)」によるものであった。

苦情の受付や解決については次のとおりであった。

ア 当施設に関する苦情やご相談に対して、迅速かつ適切に対応するために「やながれ地区施設運営委員会」を設置して、目安箱による苦情の受け付けのほか、毎月1回外部の施設運営委員による利用者の意見聴取の機会を設けた。

イ アのほか施設には、次のような苦情等の申出窓口も設けて、常時苦情の受け付け、解決に当たった。

苦情解決責任者	施設長
苦情等の申出窓口	サービス管理責任者

ウ 平成 25 年度に寄せられた苦情、意見の概要は次のとおりであった。

区 分	件 数	左の内訳	
		施設内の問題	その他の問題
苦情等の申出窓口	3	3	0
やながれ地区施設運営委員会	0	0	0
福祉サービス困りごと解決委員会	0	0	0

入所、退所および入退院などの手続きのほか、医療、保健、社会福祉等の社会資源その他、関係機関への連絡、調整または支援を行った。

利用者と扶養義務者の関係または個々の利用者が抱えている悩みや、不安の解決やその調整に努めた。

利用者に対する、日常生活や社会生活上の諸相談、助言あるいは必要な支援を行った。利用者の状況は別表 2 のとおりであった。

(2) 基本的な日常生活の介護と、自立生活へ向けての支援は「障害者支援施設あき業務基準書」に基づき実施した。

入浴回数、実施曜日、時間帯および入浴人員等は、次のとおりであった。(1 週間の実施状況)

入浴の方法		一 般 浴	特 別 浴		入浴のできない者への対応
			ライナー浴	機械入浴	
入浴の回数など					清 拭 更 衣 ドライシャンプー
1人1週あたりの回数		2回	2回	2回	
入浴実施曜日		火・金	火・金	火・金	
代替日(前年度実績)		なし	なし	なし	
時間帯	男	(火) 11:10~12:00	15:30~18:00	15:30~18:00	
		(金) 10:10~11:10	14:00~16:30	14:00~16:30	
	女	(火) 10:10~11:10	14:00~15:30	14:00~15:30	
		(金) 11:10~12:00	16:30~18:00	16:30~18:00	
対 象 者 数		6人	9人	27人	
1回あたり入浴人員		6人	10人	22人	
1回あたり介助人員		5人	7人		

(3) 医療、リハビリテーションによる疾病の予防、健康管理とその保持は「障害者支援施設あき業務基準書」に基づき実施した。

受診および入院の状況

ア 月別受診件数

科目	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	内 科		10	7	13	6	8	9	14	9	10	13	9	9
耳鼻科		2	3	3	4	3	1	3	1	3	2	2	1	28
眼 科		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
精神科		8	3	3	3	5	4	6	5	5	3	4	7	56
外 科		2	1	3	3	4	2	3	3	4	2	6	4	37

整形外科	2	0	3	4	3	3	5	2	0	1	2	3	28
泌尿器科	2	3	1	1	1	3	2	3	5	1	1	2	25
脳外科	1	0	0	1	3	1	2	5	1	3	1	1	19
皮膚科	0	0	0	2	0	1	0	1	1	4	1	2	12
その他	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	7
歯科	2	0	0	0	0	2	2	1	1	2	0	2	12
計	31	19	26	25	28	27	37	30	30	31	26	32	342

イ 月別入院件数

科目	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	内 科	2	3	3	0	1	1	2	0	1	1	1	2	17
外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
計	2	3	3	0	1	1	2	0	2	2	1	2	2	19

リハビリテーションの実施状況

ア 運動療法、リハビリテーションの運営態勢は、次のとおりであった。

職 種	人 員	勤 務 日、時 間
理学療法士	1人	月(8:30~12:30) 木(8:30~17:30)
機能訓練指導員	1人	月~金(9:00~17:00)

(4) 給食業務は、業務委託業者と綿密な連携を図り、適切な食事の提供と健康の保持は「障害者支援施設あき業務基準書」に基づき実施した。

行事食のメニューは次のとおりであった。

行事名	メニュー
バイキング	おにぎりおにぎり・パン・サンドイッチ・刺身・鰹のたたき・ハンバーグ・天ぷらの盛り合わせ・エビフライ・うなぎの蒲焼き・焼き鳥・フランクフルト・フルーツポンチ・飲み物(ジュース・アルコール類)
まぐろの解体ショー	まぐろのにぎり寿司・刺身・いとこ煮・アーモンド和え・赤だし
年忘れ会	巻き寿司・パン盛り合わせ・ハンバーグ・フランクフルト・エビフライ・まぐろフライ・鶏肉の照り焼き・クリスマスケーキ フルーツポンチ・飲み物(ジュース・アルコール類)
新年祝賀会	皿鉢盛り合わせ・刺身盛り合わせ・雑煮・お屠蘇・フルーツポンチ 飲み物(ジュース・アルコール類)

年間の給食費等の状況は次のとおりであった。

期 間	給食費（年額）	延べ利用者数（年間）	1日当りの平均単価/人
平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	12,437,829円	15,551人	800円

嗜好の把握と献立反映状況

嗜好の把握	回 数	献立への反映状況
嗜好調査	年2回	代替食・選択食
残滓調査	年1,089回	
給食懇談会	月1回	

4 文化的、社会的活動への参加と生き甲斐づくりに努めた。

年間行事等

行事名	実施年月日	実施場所	参加者
花見	4月1・3・11・18日 H26年3月27・29・30・31日	安芸市内・芸西村	利用者・職員
外出	5月13・15・27・30日、6月3・6・ 26・27日、7月1・18日、8月19・ 29日、9月12・30日、11月5日	フジグラン野市・帯屋町 イオン高知・大山道の駅 安芸市内	利用者・職員
レクリエーション大会	6月19日	施設内	利用者・職員
レクリエーション大会後の食事会	6月19日	施設内	利用者・職員
第29回 八流納涼祭	7月20日	施設内	利用者・職員・ボランティア 地域住民
よさこい踊り子隊来園	8月3日	施設内	利用者・職員・ボランティア
花火大会観覧	8月4日	安芸漁港近郊の公園	利用者・職員
かき氷屋 開店	8月15日	施設内	利用者・職員
マグロの解体実演	8月21日	施設内	利用者・職員・料理人・魚国
彼岸法要	9月20日	施設内	利用者・職員・住職
安芸中学吹奏楽部演奏会	10月14日	施設内	利用者・職員・教員・学生
清水ヶ丘中学校体験学習	10月24日	施設内	利用者・職員・学生
年忘れ会	12月18日	施設内	利用者・職員
新年祝賀会	H26年1月1日	施設内	利用者・職員
節分豆まき	2月3日	施設内	利用者・職員
彼岸法要	3月18日	施設内	利用者・職員・住職

感染症対策として平成25年度途中から施設としての外出は控えた。

利便サービス

サービス名	内 容
買 い 物	毎週日曜日、利用者の購入希望品の買出しをする。
預金引出し	毎週火曜日と金曜日に銀行が来園し、預金の預け入れや引出しをする。
売 店	毎週木曜日、近くの商店の協力により菓子類の販売をする。
衣料品販売	随時
図 書	定期的に市民図書館から本を借りる。

サークル活動状況

ア サークル参加者

(平成26年3月31日現在)

利用者現員			参加者実人員			未加入者実人員		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
28人	14人	42人	25人	14人	39人	3人	0人	3人

イ 運営・開催状況

(平成26年3月31日現在)

サークル	加入(在籍)人員			指 導 者	開催状況
	男	女	計		
珠のれん	8人	5人	13人	職 員	月2回
園芸	3人	3人	6人	職 員	月2回
絵画	6人	8人	14人	職員・ボランティア	月2回
生花	1人	2人	3人	職員・ボランティア	月2回
お茶	3人	3人	6人	職員・ボランティア	月2回
ふれあい	5人	3人	8人	職 員	月1回
紙芝居	自 由 参 加			職 員	月1回
リズム	自 由 参 加			職員・ボランティア	月3回
カラオケ	自 由 参 加			職 員	月1回
ビデオ	自 由 参 加			職 員	火・金
スポーツレク	自 由 参 加			職 員	月1回
生き生き	自 由 参 加			職 員	月1回

別表1

生活プログラム

サービス区分	時間	日	月	火	水	木	金	土			
施設入所支援	6:00	起床	起床	起床	起床	起床	起床	起床			
	7:30	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食			
生活介護	9:00	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間			
	10:00	テレビ体操	テレビ体操	テレビ体操	テレビ体操	テレビ体操	テレビ体操	テレビ体操			
	10:15	リハビリ	散髪 (月2回)	リハビリ	入浴	リズム音楽 (月3回)	リハビリ	入浴	絵画 (月2回)		
	11:00				ビデオ観賞			ビデオ観賞	珠のれん (月2回)		
	11:30				銀行来園			銀行来園	銀行来園		
	12:15	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食		
	13:00	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間		
	13:30	買い物 (毎週) おやつ タイム 紙芝居 (月1回) カラオケ (月1回) 生き生き ふれあい (月1回)	リハビリ	生け花 (月2回)	リハビリ	入浴	リハビリ	売店 (毎週)	リハビリ	入浴	園芸 (月2回) おやつ タイム
	14:00			お茶 (月2回)				移動図書 (月1回)			
	14:30			おやつ タイム				おやつ タイム			
	15:00			おやつ タイム				おやつ タイム			
	15:30			おやつ タイム				おやつ タイム			
	施設入所支援	17:00	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間		
18:00		夕食	夕食	夕食	晩酌・夕食	夕食	夕食	夕食			
22:00		居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯			
23:00		ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯			

(注) この生活プログラムは、標準的なものであり、諸事情により内容が変更する場合があります。

別表2

利用者の傷害別人員・性別・年齢別

(平成26年3月31日現在)

区分	障害分類	脳性マヒ	損傷			脊髄マヒ	脳血管障害後遺症	頭部外傷後遺症	リウマチ	進行性筋萎縮症	その他	合計	左の内		
			頸椎損傷	胸腰髄損傷	脊髄損傷								精神病併発者	視覚障害保持者	聴覚障害保持者
性別	男	4	0	0	1	0	11	3	0	0	10	29	4	2	1
	女	2	0	0	0	0	5	0	0	0	6	13	1	0	0
	計	6	0	0	1	0	16	3	0	0	16	42	5	2	1
手帳等級別	1級	4	0	0	1	0	11	3	0	0	11	30	3	2	1
	2級	2	0	0	0	0	4	0	0	0	5	11	2	0	0
	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	計	6	0	0	1	0	16	3	0	0	16	42	5	2	1
年齢区分	20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20～29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	30～39	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0
	40～49	2	0	0	0	0	2	0	0	0	5	9	2	1	0
	50～59	1	0	0	0	0	3	0	0	0	4	8	3	0	0
	60～64	0	0	0	0	0	4	2	0	0	3	9	0	1	1
	65～69	2	0	0	1	0	3	0	0	0	1	7	0	0	0
	70歳以上	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	5	0	0	0
計	6	0	0	1	0	16	3	0	0	16	42	5	2	1	
傷害の類別比率 (%)		14	0	0	2	0	38	7	0	0	38	100	-	-	-

(注) 平均年齢 男性55.6歳 ・ 女性63.0歳

利用者の主たる障害の原因の状況

(平成26年3月31日現在)

障害の原因 性別	事 故					疾 病				合計
	交通事故	労働災害	その他の事故	戦傷病 戦災	小計	先天性	後天性	その他	小計	
男	2	1	2	0	5	5	18	0	23	28
女	0	0	3	0	3	3	8	0	11	14
計	2	1	5	0	8	8	26	0	34	42

利用者の身元引受人の状況

(平成26年3月31日現在)

親	配偶者	子 供	兄弟姉妹	親 族	その他	合計
14人	4人	4人	12人	6人	2人	42人

利用者の年齢の状況

(平成26年3月31日現在)

	最年少	最年長	平均
男	21歳	76歳	56歳(55.6歳)
女	46歳	81歳	63歳(63.0歳)
全体	21歳	81歳	58歳(58.1歳)

日常生活動作等の状況

(平成26年3月31日現在)

介助区分	一部介助	全部介助	備考
食事介助	6人	16人	一部:スプーン等を使用し、一部介助すれば食事ができる。 全部:臥床のままでは食べさせなければ食事できない。
排泄介助	4人	32人	一部:介助があれば簡易便器およびトイレでできる。 夜間はおむつを使用する。 全部:常時おむつを使用している。
着脱衣介助	2人	33人	一部:手を貸せば着脱できる。 全部:自分でできないのですべて介助を要する。
入浴介助	9人	33人	一部:身体を洗うときや、浴槽の出入りに介助を要する。 全部:自分でできないのですべて介助を要する。 特殊浴槽を使用している。
歩行介助	1人	17人	一部:付添が手や肩を貸せば歩ける。 全部:車椅子等への乗り移りに介助を要するが、自力で施設内を移動できる。
寝返り介助	2人	26人	一部:少し手を貸せば寝返りできる。 全部:1人では寝返りできないのですべて介助を要する。
車椅子使用者数	41人		
知的障害者数	6人		身体障害と重複
精神障害者数	5人		身体障害と重複
おむつ使用者数 (夜間のみ使用)	26人 (1人)		
褥瘡者数	0人		

利用者の在籍状況および理由別入退所状況

区分 月	毎月初日の在籍者数	入所前の状況						退 所 理 由								
		家 庭	医 療 機 関	社 会 福 祉 施 設 (同 種)	社 会 福 祉 施 設 (他 種)	そ の 他	計	社 会 復 帰		家 庭 復 帰	医 療 機 関 入 院	社 会 福 祉 施 設 (同 種)	社 会 福 祉 施 設 (他 種)	死 亡	そ の 他	計
								就 職	自 営							
平成25年 4月	43															
5月	43															
6月	43															
7月	44		1				1									
8月	44															
9月	44															
10月	44										1					1
11月	43															
12月	43													1		1
平成26年 1月	42															
2月	42															
3月	42															
計	517		1				1				1			1		2

別表3

短期入所事業所あき

事業の総括

当事業所は、障害者支援施設あきに併設されたもので、事業は障害者支援施設あきに準じて実施した。

事業の概要

1 職員の配置状況は、次のとおりであった。

(平成26年3月31日現在)

職種名	所長	サービス管理責任者	医師	看護師	理学療法士	機能訓練指導員	生活支援員(相談)	生活支援員(介護)	栄養士	事務員等	用務員等	合計
職員配置数	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	11(11)

(注) ()内は、兼務職員。

2 短期入所利用者に対する日常生活の支援は、障害者支援施設あき利用者への支援に準じて実施した。

具体的内容は次のとおりであった。

(1) 安全で安心して生活できるように、事業所設備の維持管理と環境の保持に努めた。

基本的な日常生活の支援を行った。

自立生活を促進するために必要な支援と相談を行った。

3 利用者の状況は、次のとおりであった。

(1)市町村別、年齢、性別等の状況

市町村名	年齢	性別	障害の程度区分	利用延日数
			区分	
安芸市	50	男	区分6	225日
安芸市	51	男	区分6	24日
安芸市	62	男	区分3	142日
計	3名			391日